

都計第 227 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

四日市市長 井上 哲夫



今後の道路行政についての意見・提案について

平素は、本市道路行政にご支援・ご指導を賜り、ありがとうございます。

さて、平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号で依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案」について、別添のとおり回答をいたします。

事務担当

都市整備部都市計画課

電話：(059)354-8194

Mail：toshikeikaku@city.yokkaichi.mie.jp

今後の道路行政についての意見・提案（四日市市）

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

【道路整備にかかる補助制度の統合化】

- 国交省内のそれぞれの局や事業メニュー別毎の予算組みを統合化し総合的な道路整備事業予算として一括で各市町に予算配分すべき
- 同時に予算要望事務の簡略化、弾力化と基礎自治体の裁量による事業の実施が可能となるようにすべきである。その際には、道路は幹線道路だけでなく、そこに接続する地域内道路等も一体となって機能するものであることに鑑み基礎自治体の裁量による部分を大幅に拡充すべきである。

【維持管理・更新のための制度強化】

- 人口減少社会の到来の中で、道路行政も従来の量的拡充から質の高いストックの形成への転換が求められており、既存施設の維持管理や社会のニーズに合わせた更新の重要性が高まっている。このため、計画的な道路の維持管理や道路自体の機能更新に資する制度整備及び予算の拡充を図るべきである。
- なお、国におかれては、鉄道駅周辺の市街地における国道においてコンパクトシティの形成にも寄与する歩行者や自転車の通行空間整備を積極的に進め「質の高い交通空間」の形成を牽引する役割を果たすべきである。

【真に必要な道路の整備推進】

- 産業の活性化を支える広域高速道路網や幹線道路の渋滞緩和のための道路整備の遅れは、地域経済へのダメージだけでなく我が国の国際競争力の低下にも繋がりがねない問題であることから、道路自体の必要性を十分に審査した上で、真に必要な道路には集中的な予算付けを行い早期に供用すべき。
- さらに、国、県、市と道路管理者が分かれる中で、真に整備が必要な道路については基礎自治体の意向を反映して整備の優先付けや予算の集中投資を行うべきである。

【安心・安全を守る道路整備への支援強化】

- また、大規模な地震等の災害への対応については、国民の命と財産を守るために一層の推進が望まれており、橋梁の耐震化等の財政支援等を強化すべきである
- なお、耐震化と合わせて橋梁の健全化を図っていくために、平成19年度から新たに創設された、橋梁の長寿命化修繕計画の補助対象となる橋梁の枠を拡大するなど支援制度の強化を図るべきである。

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状 ● モータリゼーションの進展と道路整備の遅れによる交通事情の悪化、特に国道 23 号等の慢性的な渋滞は臨海部産業の競争力低下と共に、沿道周辺の住環境を脅かしている。また、主要な基幹道路である国道 1 号も大部分が 2 車線しか整備されておらず、渋滞が産業の発展や市民生活の弊害になっている。 ● これらの基幹国道は臨海部に位置することから、近い将来発生が予想される東南海地震等では液状化による被害が予想されている。また、市内の県管理国道においては、緊急輸送路に指定されているにもかかわらず未改良区間があり、至急の対応が望まれている。 ※昨年 2 月には、国道 1 号の天白橋において橋脚に空洞が発見され、約 1 ヶ月間の通行止めが発生。道路網の脆弱さを強く認識させた。 ● 人口規模に対して広い市街地を抱える四日市市では、市道及び市が管理する道路として 2, 0 0 0 Km 以上もの膨大なストックを抱えている。 ● 道路交通のボトルネックとなっている踏切について、踏切道改良促進法に基づく改良は立体交差化または統廃合による既存踏切の除去が前提となっており対策が進んでいないものがある。	○課題 ● 新名神高速道路や東海環状自動車道(西回り区間)をはじめとする広域道路の整備、及び広域道路と都市部をつなぐ連絡道路の早期整備による臨海部に集中する交通の分散 ● 市内基幹道路における橋梁耐震補強等による耐震性の向上 ● 郊外部に位置し液状化等による被災の可能性が少ない国道 1 号北勢バイパスの早期整備 ● 市内の道路の計画的な維持管理や機能更新 ● 道路及び鉄道など交通モード間の連携と調整
--	--

②-2 地域の目指すべき将来像

【自立した商工業都市】

- 臨海部の恵まれた産業立地に支えられ商工業都市として発展してきた四日市市も、バブル経済の破綻以降、中心市街地の衰退や産業の空洞化に直面していたが、近年、中心市街地への商業機能や人口の回帰、東芝四日市工場や八千代工業に代表される大規模な設備投資、コンビナート企業の高度化などが進みつつあり、今後も産業の活力を維持・発展させながら職住が近接した自立都市の維持を図る。

【コンパクトシティ】

- 四日市市は、公害問題による住工分離政策及び高度経済成長期の人口増に伴う郊外の丘陵部への大規模な住宅開発などで都市を拡大してきたが、少子高齢化が進展し人口減少社会へ移行していく中で、量的な拡大から質的な充実を図る方向に転換していくことが不可欠となっている。このため、既存のストックを有効に活用した所謂コンパクトシティを指向し、鉄道駅などの公共交通の拠点を中心に「歩いて暮らせるまちづくり」を進める。

【恵まれた自然環境の維持・保全】

- 高度成長時代における「公害問題」や最近の「産業廃棄物の違法処分問題」など生活環境の良くない都市というイメージで見られがちな四日市市であるが、現実には、鈴鹿山脈や市内の里山から流れる河川が耕地を潤し、その伏流水や地下水は水道水源の主力となるなど、豊かな水と緑に恵まれた都市でもあり、丘陵部の茶畑や平野部の田畑、里山の雑木林といった四日市古来の原風景が多く残されており、自然環境の維持・保全により、自然と身近に触れられる住環境を次世代に残していく。

【安心安全なまちづくり】

- 東海・東南海地震発生の切迫性が高まる中、高度成長時代に市の発展を支えてきた古い市街地で狭隘な道路や木造建築物の密集した区域が残るほか、近年では地球温暖化が原因とも言われるゲリラ豪雨も頻繁に発生している。このため、緊急時の防災空間や緊急車両の通行の確保や都市内の農地の計画的保全など総合的な対策により安全性の高い市街地形成を図る。

③道路施策の重点事項

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
● 国際競争力の強化 ● 地域活力の向上	新名神高速道路や東海環状自動車道の整備促進 北勢バイパスの整備促進	・ 国際中枢港湾四日市港の勢力圏の拡大 ・ わが国経済を牽引する中部地方のものづくり産業間の連携強化 ・ 国道 23 号、1 号の渋滞解消による臨海部企業の競争力強化	
● 大規模な地震、火災に強い国土づくり	橋梁耐震補強と北勢バイパスの整備	・ 大規模地震発生時の緊急輸送路の確保 ・ 液状化が懸念される国道 1 号、23 号の代替路線 ・ 救急医療拠点と県北部地域を結ぶ路線の充実	
● 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	歩道整備（交安事業）による交通事故対策 近鉄名古屋線川原町駅付近連続立体事業 従来の枠組みにとられない踏切対策	・ 交通事故の減少と交通の円滑化 ・ コストパフォーマンスの高い踏切対策	
● 少子高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 ● 良好な生活空間・自然環境の形成	鉄道駅等交通結節点を中心とした歩行空間や自転車道整備 駅前広場整備等交通結節点整備	・ 歩いて暮らせるまちづくり ・ 公共交通の維持 ・ 自然環境の保全（開発圧力を市街地に向ける） ・ 低CO2 社会の実現	
● 計画的・効率的な維持管理や更新の推進	補助制度の統合化 基礎自治体への財源の移譲	・ 利用する側の視点を反映した道路整備の最適化 ・ 持続可能な都市づくりへの寄与 ・ 既存ストックの最大限の活用による省コスト化	